

後方羊蹄山等の初夏の風光を賞し、午後八時札幌に着き、驛前宿陽館ホテルに投宿。二日外泊の許可を得て来る。入浴晚餐を共にし別後一年有るの物語りをなしつつ、

内郷村報の 六大使命

- 一、政黨政黨を超越して、村を代表する。
- 二、村内外各機關の活動状況を報導し併せて其協働を計り、總現和進歩努力の實績を期す。
- 三、本村社會事業の徹底を期す。
- 四、村内の善事善行を表彰し、且之を獎勵す。
- 五、本村と本村出身者及本村關係者との聯絡を計り、且其發展向上を期す。
- 六、餘力を以て國民轉進に當る。

内郷村報

天法人則
ルベシナ

はるばるこそ！！
（一）

大内民惠

これは来る八月二日より五日間東京に開催せらるる、世界教育會議への提案があつて、評議員矢野恒太氏を通じて其手續中のものであります。特に、この掲載して、讀者各位の御批教を仰ぐ次第であります。而して此巻頭には、明治天皇の賜はりたる五箇條の御誓文と教育勅語とを掲載いたしてあるであります。

皆様！重き使命を帯はれてようこそ！はるばると御來光下さいました。
我國に於ては、全國を擧げて、皆様を心から御歡迎いたして居ります。殊に私は一九〇七年から三年間、米本國にあつて、特に教育方面を視察し研究し、一九一〇年から八年間、布哇縣に在つて、親しく我二世の國語教育に従事し、當時の總領事代理、前外務大臣有田八郎氏及我等五人の代表者が、布哇縣の學務當局と、

本誌發行は大内一家の事業にして、其の社務は子孫に継承する遺業を養ふものなり。

本誌發行一周年記念號發行
發行所 大内民惠
印刷所 平活版所

私は先づ皆様に、日本の縮圖とも申すべき、此東京をよく御覽願ひたいと存じます。申す迄もなく、我々人間の生活には、衣食住の三つが其根元をなすものであります。第一たる（衣服）は、どうせうか。外に出て働くところは、あらゆる階級の者は殆んど男女を問はず、日本化した歐米の衣服、即ち洋服を着て居ります。而して彼等は一旦家に歸れば、何れも日本服に着換へて、悠々どくつろぐのであります。又皆様は街上日本服を着て歩く者に就いて、よく御覽下さい。皆様のお目には、一寸御判

は、何れも其職業によつて、それぞれ異つた服装をして居るのであつて、趣味、利便等については勿論、藝術的方面に就いても、相當苦心して居る點を、御注意願ひたいと思ふのであります。第二に（食物）は、どうせうか。全市に涉つて、日本在來のものに申す迄もなく、あらゆる世界の料理店があるのであります。而して其料理の風味は、皆様のお國其のものもありません。又日本化した居るものも澤山ある事と存じます。而して各自の家庭に於ても、世界の各種料理を日本化した之をとりつゝあるのであります。第三に其（住宅）は、どうせうか。我國固有の家屋の間に、歐米風の若しくは、我國のそれ等と折衷した、建物や住宅が、全市に散在して居る實際を親しく御覽になるでせう。而して其内部外部の設備も調度も裝飾も將た庭園も、其建物や住宅と、よく調和を保つて、日本化した居る點を、見出たさる事と存じます。次に我々の日常用ゐて居る（國語）は、どうせうか。皆様の御耳には、一様にたゞ

日本語として、お聞きにされる事とせうが、我日本語は我國固有の言語を中心として、古くは支那をはじめ東洋南洋の諸國から、最近では歐米の各國からいたゞいた、文字なり、言語なりを、それぞれ日本語化して、用ゐて居るのであります。又我國で新たに作つた文字も國語も澤山にあるのであります。それから（科學）方面は、どうせうか。申しますに、哲學は勿論、あらゆる精神的科學も、物質的科學も、等しく皆様の御國からいたゞいて、之を委く消化して、其を基本として、絶えず研究を續けてつゞぎに新しい發見も發明もいたして居るのであります。又交通機關の如きも皆様のお國からいたゞいたものを、それぞれ日本化した普及して居るのであります。次に（宗教）方面は、どうせうか。申しますに、我國には、國民全體の信仰する、神道と申す國教ともいふべき教があります。之亦皆様のお國から、儒教佛教基督教等あらゆる宗教をいたゞいて、之を我神隨道と併せて、我國民の信仰生活を形づくつて居るのであります。

次に其 (人種) はどうであるかと申すに、之も亦皆様からは

一様に日本人として、御覽になる事でせうが、決して

そのうではないのであります勿論大和民族が、其中樞を

なして居る事は、申す迄もなないのであります、とに

か、我五十二代 嵯峨天皇 (809) の御代の調査に

成立つて居る我帝國が、今日世界の皆様のお國と、同

等に御交際をしていたゞき其上、世界の五大強國の一

だとか、乃至は三大強國の一だなど、いつて下さる

事を考へる時に、私共日本國民は、たゞ勿體なく、皆

様のお國に對して、衷心から、お蔭様である、と、幾重にも御禮申上げざるを得ないものであります。

七年會定會員

五月分收支統計 金千六百七十三圓十七錢

金千六百七十三圓十七錢 三十六人總收入、一人平均金

四十六圓四十七錢餘 金五百三十八圓〇五錢餘

三十六人總支出、一人平均金 十四圓九十四錢餘

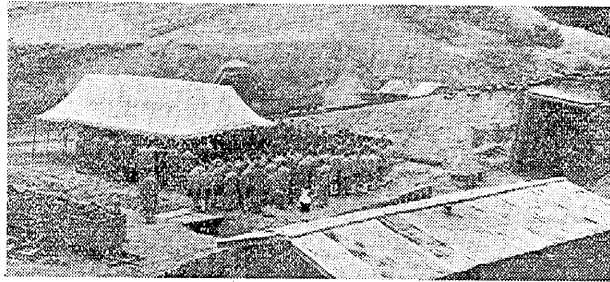
差引剩餘 金千三百五十二圓十二錢 貯金、國許送金其他に充當、

長倉 本坑 着炭祝賀會

第二警城炭礦長倉坑に於ては、本坑掘鑿に當面して、

全従業員が寢食を忘れて精勵奮進したる功勞空しから

す、終に五月二十二日、常磐地方としては稀有なる九



景光の會賀祝炭着坑本倉長

て受けて行く。一、午前九時頃より學校の

坂下、本坑道路の入口にて一般従業員及び來賓に、二

合瓶酒と赤飯及肴の折詰を交付する。湯本の妓軍は殆

んど總出にて、其交付手傳を奉仕し、大に祝ひ氣分を添へる。尙此時刻より本坑

たる後、午後一時山形屋に開催したる祝宴に出席。主

客五十五名、菅原所長挨拶後、前川事務の祝電を披露

する。主なる客は平警察署長、磐崎村新舊村長、湯本

町長、同驛長等であつた。一、午後六時半より、松柏

館に於て、長倉坑准雇員以上の祝宴を催す。會するもの六十六名。前川坑長、菅

日本評論社

發行所 東京三丁目 取次所 内郷村報社

金拾圓 大連 蘇武 清人

金拾圓 小松 金太

金拾圓 石川 登

磐炭總役付會に 金山重役熱辯を揮ふ

矢野 恒太序 大内民惠著 教育制度改革概論 (四六版二二頁 定價五十錢 郵税六錢)

行き詰れる現代の教育制度を解體して、學理と實際と、歴史と實驗とから新に大内案九主義を提唱す。天下

我國教育學界の權威 前京大總長小西重直博士 著を寄せて曰く、多年ノ御體験下實地

味仕！不服感二行 申儀云々。

方面委員會

は四千七百圓を要したる由

方面委員會

六月十四日午後一時、討議

方面委員會

の二班に分れ、(小山宮下

方面委員會

兩氏は其班長となる)一行

方面委員會

に加はつて、五月十八日午

方面委員會

後五時出發、翌十九日午前

村 會 議 員 選 舉

六月八日執行セル本村會議員ノ改選ハ雨天ニモ係ラズ棄權數三〇七死亡其他理由ニ依ル失格者數四二〇總投票數四六〇三内無効投票ハ一二七アリ棄權率ハ六分二厘五毛ニテ成績良好ナリ各立候補者得票數左ノ如シ

九四票 永井茂次郎
九三票 野木 力
八八票 遠藤 嘉一
八五票 草野 末吉
以上當選
八三票 加藤木誠一郎
七三票 葉谷才之助
六八票 小泉 眞壽
六四票 竹島 眞平
六〇票 草野金四郎
四一票 鈴木 浦治
二四票 渡邊 安喜
二〇票 齋藤 庫吉
當選者平均年齢四十七才(係)

村 會

五月二十九日三十一日ノ村會ニ於テ議決シタル事項左ノ如シ
一、村會議員辭任報告ノ件
家事上ノ都合ニ依リ村會議員佐川芳松、三澤義則、四月廿六日、湊慶三郎、五月八日、長谷川幾之介、五月十日各議員ヨリ辭任届アリタルヲ以テ何レモ之レヲ受理シタリ。
一、村道供用廢止ノ件
大字白水いる線ノ中大神田七十五番ノ五ヨリ字柳間八十二番地ニ至ル面積四百四十五坪二合三勺二、大字島いる線ノ中字下

ノ四十三番ノ二面積十三坪八合
右廢止可決
一、廢道緣故拂下ノ件
前記廢道一坪四十錢ノ割ニテ緣故拂下可決
一、昭和十二年度内郷村歳入歳出追加豫算
歳 入
一金六九貳圓 追加豫算額
一金一四六二三三圓 己定豫算額
合計金一四六九二五五圓

急 告

縣稅營業稅雜種稅同村稅附加稅共ニ前期ノ納稅期限ハ本月二十五日限り、特別稅戶數割ハ三十日限りデスカラオ忘レナク納メテ下サイ

部 落 常 會

大字下級及高坂は五月十七日に、大字内町は同十九日に、大字小島は、同二十日に、それノ、部落常會を開催終つて村當局及駐在巡查立會の下に村議豫選を行つた
下 縣 町 村 長 大 會
五月二十日より二日間、三春町に開催せられたる同會に、本村よりは金澤助役出席した。

本 度 大 字 御 厩 豫 算

行政費 三六二圓
土木費 三五〇圓
收入之部
金六一二圓 大字區費及村補助
支出内譯
區長並代理元老 金五六圓
組長給 金三五圓
青年團補助 金貳拾圓
消防組補助金 金六〇圓
山林稅 金二〇圓
共同堰費 金二〇圓
集會費 金二〇圓
勸業費 金一〇圓
祭典費 金一〇圓
入營及除隊費 金四〇圓
諸雜費

納 稅 の 義 務

内郷村書記 山崎千朝
殊に税金は其人の財産収入又は件等に應じ課税するのであつて、假令は宅地畑山林等の如き不動産を所有しない人に、宅地租田租如難地租の様な課税をしないのは勿論凡て其人の所有財産、収入又は物件によつて課税するのであるが、人によつては少くばかりの不動産に税金ばかり掛るから不動産等不用だと云ふ人があつるかと思ふ、何と云ふかして家庭地位はほいさ云ふ人があつるか。之等は何れが正當の言葉だらうか。試に前者に對し不用の不動産を無償で後者に譲渡してはと言ひば、それは到底出來ない相談である處から見れば、前者は取りも直さず不動産は入用だが、税金を納めるのは嫌いだ云ふ意味になり、全く感服出來ない人である。前に申し 様に税金は其人の資力に依て賦課するものであるから、假令は一萬圓の収入ある人が假りに一十圓の税金を納めるとするも、尙九千圓の余裕がある事に成り、一十圓の収入ある人が假りに百圓の税金を納めるとすれば余裕が九百圓となり、更に百圓の収入の人が假りに十圓納めるとすれば九十圓しか残らない云ふ勘定で、一十圓納める人は百圓、百圓納める人は十圓位なれば大變樂だと思ふが、反對に十圓納める人は假令千圓が二千圓納めてもよいから、一萬圓の収入を望む云ふ様な譯で、之等を對照する時は、税金を多く納めれば納める程余裕が少く納めれば納めれば少い程困難だ云ふ事になるのであるから、常に年々何程つとでも多く納める様になりたいと希望する事が、自分の爲ばかりでなく國家に盡す所以だらうと思ふのであります。(完)

全日本方面委員大會ノ記

方面委員 田 口 淳 三

標題第八回大會ハ左記ノ如ク東京市ニ於テ開催サレタ...

濟生會記念祝典ニ際シ 畏クモ皇后陛下ヨリ金一封ト御歌一首

大越氏の篤志

白水大越松吉氏は、亡父故前村會議員大越勝之助氏の遺志に基き、ラヂオ受信機及蓄音器擴聲機を、第二小學校に寄贈した。

佐藤校長夫人 急逝

高坂尋常高等小學校校長佐藤一氏トヲヨ夫人(四八)は數日前から輕微な疾膿症に胃され、自宅に於て療養中の處、十五日午前九時三十分頃、突然心臓麻痺を併發して遂に逝去した。別項記載の如く同校長には、修學旅行の爲め、東京方面に出張中であつたので、急電をうけ歸校せられたが、其間に合は

内郷 郊外寫生

内郷尋常高校では、六月三日四日に涉り、左の如く郊外寫生を行つた。

農家曆

六月 奮闘の月 (下旬) 梨袋掛。馬鈴薯の追肥土...

七月 手入の月

(上旬) 馬鈴薯の收穫。稻田一番除草。麥の調製貯藏。胡蘿蔔の下種...

有價証券に付いて

本年四月より實施せる有價証券移轉税は、有價証券の内國債証券、地方証券、社

經營は各角 家庭は固く 婦人は目醒めて 村に輝く

ていた、迄になつて居るのではありません。大要以上申上げた様な、世界に類例のない、國民から

失野 恒太 大内民恵者 教育制度改革概論

行き詰れる現代の教育制度を解體して、學理と實際と、歴史と實驗とから新に大内案九主義を提唱す。天下知名の士の賛同攻撃に堪へず。されど未だ一人の抗議者も現はれず。

我が教育學界の威 前京大總長小西重直博士 書を寄せて曰く、多年の御體験と實地ノ御試練ニ基テ眞實學界ノ大精神ヲ拜見シ、不感歎ニ打テ申候云々。

發行所 日本評論社 東京三丁目 取次所 内郷村報社

磐炭總役付會に 金山重役熱辯を揮ふ

六月十三日午前九時より、淺野翁頌徳記念館に、開催せられたる磐炭總役付會に於て、菅原所長の紹介により、工場服に身を包んだ金山重役が、悠々登壇、温顔に微笑をたゝえて、満場に一揮するや、一同は衷心からオラが重役!の親しみを以つて、歡迎の拍手を送る



磐炭總長 菅原 治 氏

のモットーたる、總親和總努力たらざるべからざるに諸君を一々記憶する事は出來ないから、諸君は之を諒として、途上であひもしたる時には、遠慮なく名のつて言葉をかけ、大に懇談する様にして呉れ給へど、慈父が愛兒に對する態度を以て壇を下る。滔々一時間有餘の熱辯、四百の聴衆をして深く共鳴感激せしむる處あつた。

修養團向上

修養團磐炭支部の向上會は六月十三日午前六時より一時間半の間、淺野翁頌徳記念館に開催、男女百余人出席、それらの行事を行ひ同九時より引きつゞき、同所に於て金山磐炭重役の講演を聴聞した。

綴郵便局移轉

一月二十日より其筋向ひの敷地に起工建築中の二階建同局舎は、四月三十日を以て見事に竣工、五月二十六日に全部移轉した。其工費

方面委員會

六月十四日午後一時、村議事堂に開會、田口委員より東京大會出席の報告後、重要事項の審議を行つた。

方面事業取扱數

(五月分) 生活扶助、法令に依るもの二六。然らざるもの、三。保健救療、法令に依るもの

麥當吟社

雌や夫運なき撰族婦 六 墟城 女房に餅搗き任じ入り 野藤司 落物らしや枯枝に結びあり ひでよ 寄宿舎に女許りや春炬燵 雲行子 刈り立ての坊主頭に春寒し 丹無子 磁煙に枯木がらる梅咲けり 旗山

奥羽北海道紀行(上)

大内民恵

五月二十五日から東京に開催の全國方面委員大會の方は、此度丈御免蒙つて、清水山莊の開拓實況や、三月孤々の聲をあげた孫を見た、又其往復には沿道の社會事業や教育事業の一端をも視察しやうと思ひ立つて、五月二十四日に出發、六月七日に歸宅したのであつた。之が其紀行の概要である。

仙臺 五月二十四日、雨。午前四時三十分發。同八時半仙臺着。或磯石の分析を依頼すべく、仙臺鐵山監督局を訪問。宮城縣廳學務部社會課を訪問、屬尾形猛、同課岸與四郎の兩氏より、縣下の社會學務兩方面に關する書類を戴き其説明を承る。次いで仙臺市役所をたつた、書記佐藤兵藏、三浦信三郎兩氏を通じて前同所。仙臺職業紹介所訪問、書記根本凌一氏より事業一般について承る。以上何れも課長所長は不在であつた。午後三時仙臺出發。四日市市會議員西脇松次郎、萩原敬次郎兩氏と同車談をかへす。盛岡市宿泊の豫定を變更して右兩氏と共に花巻驛に下車、電車にて花巻温泉に到り、千秋閣に投宿、時に午後八時半。一浴晚餐をすまして就床。

花巻温泉 五月二十五日、曇。四時起床、單身温泉地帯を一巡す。海抜百四十米突、西北は翠巒に抱

神奉仕會參拜

本村よりは三十八人、六七

改善教養に努めて居りますので、遠からず皆様のお國同様に、なつて行く事と堅く信じて居るのであります

一、朝來幾十發の煙火に人出刻々に増す。午前七時より一般従業員は、熨斗袋に入れたる酒肴料を嬉々とし

流れ行く光景は、眞に筆舌に盡し難い感があつた。一、來賓及主任以上は式終了後、神樂角力等を見物し

金壹圓 西白川 箭内名左門 金貳圓 渡邊 石川 金壹圓 全 久保木安雄 金拾圓 大連 蘇武 清人

内郷村報

内郷村報の 六大使命

- 一、政黨政派を超越して、村の純實主義を標榜す。
- 二、村内外公私各機關の活動状況を報導し、併せて其協力を計り、進現和協努力の實現を期す。
- 三、本村社會事業の徹底を期す。
- 四、村内外の善事善行を表彰し、且之を奨励す。
- 五、本村に本村出身者及本村関係者との聯絡を計り、且其發展向上を期す。
- 六、尙餘力を以て國民指導に當る。

天法人則 從順ナ

私はそうした立場から、此千載一遇の好機會に於て、年來研究もし、考慮もして居つた事を、御参考迄に便等については勿論、藝術

は何れも其職業によつて、それぞれ異つた服装をして居るのであつて、趣味、利語は我國固有の言語を中心として、古くは支那をよ

内に殺到す。甲斐々々しくモンペイに身を固めたる、女子青年の一隊に行きあひ大に氣をよくする。平民宰相原敬氏の遺跡前を過ぎり三十年前米國に於て、晩餐と共に大に談じたる當時を追憶する。午後四時盛岡出發、こゝに圖らずも昨日の西脇原兩氏と淺虫迄同車。又車中東京の印刷用インキ商小森萬平氏と對面して話をかしたる關係上、其紹介により、九時青森に着くと共に、驛前陸奥館に投宿。



二 郎 二 郎
比 横
比 横

役所を訪問、總務課長石塚茂孝、學務係長高橋要造、社會係長山田邦三郎の三氏より、それぞれ其方面の概要を承り、併せて其書類を戴く。夜間中學をたつれ、教諭野村米藏氏より其概況を承り、異色の學校にして其徹底振りに敬服す。職業紹介所をたつれ、所長栗田秀雄氏より、事業一般をうけたまはる。午前十一時青森驛出發。弘前に向ひ十二時着、驛構内にて蕎麥を立食盡す。

介紹に到り、所長竹内助七氏に就き、事業の一班を承す。弘前城趾なる鷹場公園を一巡す。特別保護建造物の天主閣、津輕信公銅像内園外濠を掩ふ、新築瀟々たるが如き幾千の櫻樹松樹、其間に点在せる招魂社、藩出身諸名士を記念する塔碑等々、仰ぐべきもの、見るべきもの少なからず、本丸よりする岩木山の展望亦絶佳。

五月二十七日、晴。午前九時、青森縣廳社會課訪問、課長不存、屬工藤省三氏に就き、縣下社會事業一般にわたり其概略をうけたまはり其書類をいたぐ。市

函館 五月二十七日、晴。八時宿を出て約一時間、大火災後に於ける市の復興振りを一瞥、九時市役所訪問、渡邊孝一郎、大田義之助、吉田嘉太郎の三氏より、社會學務兩方面の一班を承り、同建物中にある市職業紹介所にて、所長佐々木鐵三郎氏より、事業の一班特に北海漁業就業者紹介状況其他を承り、啓蒙せらる。處多々であつた。丸井デパートで食事をとり、辨天町方面の細民宿を一巡して、午後一時二十分函館發急行に乗込み、同時に在札幌市外真駒内種畜場の二邸に打電す。天氣晴明、行後方羊蹄山等の、初夏の風光を賞し、午後八時札幌に着き、驛前信陽館ホテルに投宿。二邸外泊の許可を得て来る。入浴晚餐を共にし別後一年有餘の物語りをなじつ、

就眠。五月二十八日、晴。午後八時宿を出て、共に理髮して、同道道廳職員課に中幸田氏、市役所庶務課長平佐武美氏をたつれ、道勢市勢の一般に關する參考資料をいたぐ。三越にて食事をしたるめ、山莊への土産品を買ひ、のふ。但し孫へは何がよいか見當つかず、之を保留する事とする。二郎の身長予を抜く二寸弱、されど賞餘は未だし、こゝに於て「縦横比較」の記念撮影をなす。種畜



山 莊 山 莊
郎 郎
郎 郎

助役山本勝治、書記吉岡直彦氏に就きて、町勢一班并に近郷の開拓状況をうけたまはる。十時二十五分瀧川出發。車中帝室林野局上野別出張所在勤の岡田清造氏と對面し帝室林野の維持經營等に關するお話を承る。次いで晴れ渡れる大空下の狩勝時を十分に展望し午後三時九分清水驛着、五十嵐商店に少憩、同店員に送られて徒歩清水山莊に着く。由清水を賃ひる留守居役の文字、あはて、駆け出し、出動中の一同を呼び來つて歓迎する。電報を誤解明日と思つて、驛に迎へに出なかつたのであつた。町は閑散、山は繁忙、丁度よかつた。店員を前に全員何々大笑す。先づ神佛を禮拜、孫をいたいて初對面をする。

瀧川 五月二十九日、晴。午前九時宿を出て、瀧川町役場をたつ

れ、助役山本勝治、書記吉岡直彦氏に就きて、町勢一班并に近郷の開拓状況をうけたまはる。十時二十五分瀧川出發。車中帝室林野局上野別出張所在勤の岡田清造氏と對面し帝室林野の維持經營等に關するお話を承る。次いで晴れ渡れる大空下の狩勝時を十分に展望し午後三時九分清水驛着、五十嵐商店に少憩、同店員に送られて徒歩清水山莊に着く。由清水を賃ひる留守居役の文字、あはて、駆け出し、出動中の一同を呼び來つて歓迎する。電報を誤解明日と思つて、驛に迎へに出なかつたのであつた。町は閑散、山は繁忙、丁度よかつた。店員を前に全員何々大笑す。先づ神佛を禮拜、孫をいたいて初對面をする。

諸鳥の聲をおまへて郭公のあはれ顔なる山莊のはる六月二日、雨。きみ及一郎を帶同清水市街に出て、學校役場及近郷數軒を訪問。午後三時九分、きみと共に清水驛出發、四時帶廣に着きお馴染の三浦屋に投宿。夕食後買物をし、二三の知己を訪問。六月三日、晴。十勝支廳に石原慶藏氏、市役所に永田秋三郎氏をたつれ、各管下の一班狀勢を承り、後種々の買物をなし「天金」にて晝食をせり、乗合バスにて、見事に開かれたる田圃のた、中を、一路清水市街に歸還、昨日まはりきれたなかつた、呢懸敷氏に敬意を表して夕刻歸莊、先づ求め歸つたくさん、の玩具を、孫に握りさせたり、かざしたりして一同よここ

打ちつ食ふべし夢の飯かな 既合宿舎を一巡、牛馬雞豚兎等の家畜を見る。五月三十一日、晴。きみと共に山莊のまはりに南瓜を播種す。それより山莊の境界をめぐる。孫をおひるを案内に山莊の境をめぐるこのあしたかな六月一日、晴。午前山莊周圍に於ける異樹類の剪定を行ふ。午後さげ播種に参加す。幾うれかきげなまきて疲れり、さすがに我も老いにけるかな家を思ふ心つからや老婆の豆まく手振りたくみなりけり



馬の上の民

まどめきあふ。七年會留守居宅より至急かへれの電報あり、五日出發に決す。六月四日、曇。午前山莊附近數軒にきみと連れ立つて敬意を表し、一郎及二少年の新懇實況を見る。事もなげにブラオをせり、燒野原ひらく我子ぞ雄々しかりけるブラオをひく三頭の馬を立つる英雄少年の勇姿、燕の如く立ち廻つて、其後を整理する信雄少年の活躍、見るからに快哉を叫ぶるを得なかつた。同時に女學校出たての嫁女文字が家事に育児に、寸暇なき精勵ぶりも、亦多きすべきものであると深く考へさせられた。夕刻木下御内儀の來訪あり、晚餐は、夫妻にて赤間家の饗應をうく (未完)

本報發行は大内一家の事業にして、其の社説は子孫に對する遺言を後世に傳ふるものなり。

本報發行所
大内一家
本社
電話
地址